

1日

《県内求人倍率1.41倍》

福島労働局が発表した10月雇用失業情勢によると、有効求人倍率は1.41倍（季節調整値）で、前月を0.05ポイント上回った。有効求人倍率が25カ月連続で1.3倍を上回り、正社員有効求人倍率（原数値）が28カ月連続で1倍を超えている一方で、有効求人数（原数値）が6カ月連続で前年同月を下回った。

4日

《大阪大学、大熊町にキャンパス設置へ》

大阪大学は2024年8月、大熊町に常設拠点の「福島キャンパス」を設置する計画を明らかにした。環境放射線に関する研究や教育を進め、関連企業の誘致や交流人口の拡大につなげる狙いもある。当面は建設会社の仮事務所跡を拠点とするが、10年以内に新たなキャンパスを整備する方針だ。

6日

《ゴッホ展、2026年開催》

後期印象派の画家として世界的に著名なゴッホの作品を並べる「大ファン・ゴッホ展」（仮題）が、2026年2月から2027年9月にかけて県立美術館（福島市）で開かれる。実行委員会が会見を開き発表した。2026年は東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の発生から15年、本県が誕生してから150年に当たる。内堀知事は、原発事故の風評払拭や風化防止、交流人口拡大に向けた取り組みを進めると強調した。

9日

《自動運転バス、公道実証運行》

田村市は、自動運転バスが同市船引町の公道を走る実証調査を始めた。公道での自動運転バスの実証調査は県内で初めてとなる。22日まで1日8便が商業施設や学校、医療機関などを巡る。同市は安全性や利用状況などを分析し、2024年度以降の本格導入を目指す。

11日

《じゃらんランキング、高湯温泉「満足度」1位》

旅行サイト「じゃらんnet」を運営するリクルート（東京都）が発表した「じゃらん人気温泉地ランキング2024」で高湯温泉（福島市）が満足度ランキング総合部門で1位に輝いた。1

位は2021年版以来3年ぶりで、満足度は94.4%だった。

13日

《プロが選ぶホテル・旅館100選、八幡屋が総合3位》

旅行新聞新社（東京都）が発表した「第49回プロが選ぶ日本のホテル・旅館100選」で、八幡屋（石川町母畑温泉）が総合3位に選ばれた。八幡屋は企画部門で2位、もてなしと施設の両部門で3位、料理部門で4位に選ばれた。

17日

《県内プロスポーツ観客動員数13万人超》

県内プロスポーツの今シーズンホーム公式戦の観客動員数が132,380人（17日時点）となり、昨シーズンの実績を上回った。動員数は、いわきFC、福島ユナイテッドFC、福島レッドホープス、福島ファイヤーボンズ、デンソーエアリービーズの合計で、昨シーズンは117,572人だった。

20日

《県産品輸出、10年連続増加》

2022年度の県産品輸出額は約13億8千万円（前年度比約500万円増）となり、統計を取り始めた2012年度以降、10年連続で増加し過去最高を更新した。日本酒などのアルコール類をはじめ、加工食品、農畜産物の3つの品目で最多を記録し、実績を押し上げた。

22日

《2050年推計人口、本県3割減》

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所は、2050年までの都道府県別・市町村別の将来推計人口を発表した。2050年の本県人口は124万7千人と見込まれ、2020年の183万3千人から約3割減り、65歳以上の高齢者が占める割合は4割を超える。

22日

《本県後継者不在率46.1%》

帝国データバンク郡山支店が、県内企業の後継者不在率の動向調査結果を発表した。後継者が「いない」「未定」とした企業は46.1%で前年より1.4ポイント増えた。事業承継の前経営者との関係性（速報値）は「同族承継」が最も高く42.6%（前年比2.7ポイント減）だった。